

保険請求事務講習会(医科)のご案内

- ◆ 日時
2022年2月20日(日)10時~15時(お昼休憩含む)
- ◆ 会場
兵庫県保険医協会5階(JR「元町駅」東口から南へ徒歩8分)
- ◆ Zoom併用で開催します
- ◆ プログラム
保険診療とは/窓口業務/点数の解説/薬剤料の計算
診療報酬請求の実務/レセプト作成実習と解説(外来分)など

※詳細は追ってFAXでご案内させていただきます。
お問い合わせは、協会事務局(Tel 078-393-1840)まで

神戸支部研究会のご案内

- ◆ 日時
2022年1月20日(木)17時~19時
- ◆ 会場
兵庫県保険医協会5階(JR「元町駅」東口から南へ徒歩8分)
- ◆ テーマ
コロナ禍における開業医の役割(仮)
~尼崎での在宅医療の実践にもふれて~
- ◆ 講師
医療法人社団裕和会理事長、尼崎市・長尾クリニック
長尾 和宏 先生



※詳細は追ってFAXでご案内させていただきます。
お問い合わせは、協会事務局(Tel 078-393-1840)まで

兵庫県保険医協会 神戸支部ニュース

351号
2021年12月15日付

発行 兵庫県保険医協会神戸支部
〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F
兵庫県保険医協会 TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

2021年度垂水社会保障をよくする会学習会・総会を開催

“今こそ医療費抑制政策の転換を”



コロナで明らかになった医療の危機的状況について学んだ
会長に再任された宮武副理事長(右上)があいさつ

垂水社会保障をよくする会(垂水社会保障)は、11月28日(日)に西垂水会館において、2021年度総会を開催し、19人が参加した。総会に先立って行われた学習会では、県社会保障推進協議会会長で協会副理事長の武村義人先生が「今こそ医療費抑制政策の転換を」と題して講演した。新型コロナウイルス感染症拡大のもとで露呈した「病床逼迫」や「看護師不足」「医師不足」など、日本の医療を危機的状況に追い込んだ根本には、政府の医療費抑制政策があると解説。

(2面に続く)

(1面のつづき)

憲法25条に照らしても、国民への医療提供をはじめとする各社会保障制度は国の責任ですすめるべきとした。「コロナは災害であり、災害が起きればどのような被害となり、補償が必要かを教えてくれた。現場の声が伝わる運動をすすめていこう」と訴えた。

介護事業所を運営する参加者は、「介護保険制度も改善してほしい。介護職への支援金等で賃上げと言われてもコロナ対応で全く追いつかない。介護報酬を上げてほしい」、「日本は感染症対策を怠ってきたのでは」「保健所も減ってきている」「大企業の責任はどう考えるか」など意見が出された。

総会では、2021年度の活動方針が確認され、協会副理事長の宮武博明先生が会長に再任された。参加団体からは「人権学習会に力を入れている」「次世代にむけた仲間づくり」「コロナ特例の減免を生かした国保相談会」「くらしと命を守るハンドブックを活用した学習会の開催」「75歳以上の医療費2倍化を止める運動」等、コロナ禍でも特徴のある活動が紹介され、憲法13条、25条を守り前進しようと締めくくった。

中央区社会保障推進協議会が総会

社会保障拡充で経済を循環させよう



「雇用・社会保障充実を」武村副理事長が記念講演

神戸支部も加盟する中央区社会保障推進協議会(中央区社保協)は11月25日、協会会議室で2021年度総会を開催した。会長には南鉄雄氏(元全国社会保険診療報酬支払基金労働組合兵庫支部執行委員長)を再任したほか、国保料問題や介護保険問題など、引き続き社会保障各分野での改善運動を進めていくことを確認した。

記念学習会では協会副理事長の武村義人先生(県社保協会会長、中央区社保協副会長)が、「新自由主義からの脱却と低医療費政策の転換」をテーマに講演。コロナ禍で浮き彫りになった日本の医療提供体制の脆弱性や背景としての低診療報酬の問題などを解説したほか、国民収奪と大企業優遇を特徴とする新自由主義政策からの転換と、雇用安定・社会保障拡充による経済循環の有用性を訴えた。

神戸支部ニュースへの投稿を募集しています

支部ニュースへの投稿を募集しています。日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。



TEL078-393-1840 / FAX078-393-1820 e-mail shima-i@doc-net.ne.jp

協会と協会神戸支部は10月31日に投開票された神戸市長選挙において、「市民にあたたかい神戸をつくる会」の岡崎史典候補を推薦した。岡崎候補は5万9000票余を獲得したものの及ばず、現職の久元喜造候補が市長に当選した。協会と協会神戸支部はこの結果を受け、11月17日の政策・運動・広報委員会と11月25日の支部幹事会で以下の見解を取りまとめた。

2021年11月25日

声明 引き続き神戸市の医療提供体制充実に全力を尽くそう

兵庫県保険医協会
政策・運動・広報委員会
神戸支部幹事会

兵庫県保険医協会と同神戸支部は、今回の神戸市長選挙にあたり、「市民にあたたかい神戸をつくる会」が擁立した兵庫県労働組合総連合事務局次長の岡崎史典氏について、久元喜造市政の転換をめざしていること、協会や神戸支部が参加する「神戸・市民要求を実現する会」や「原発をなくし自然エネルギーを推進する兵庫の会」の事務局長を務めるなど、これまで協会とともに市民運動を進めてきた経験があること、無所属の候補者として幅広い市民と会員の信頼を得ることができることを理由に、「2021年神戸市長選挙にあたって開業保険医師、および歯科医師の重点要求(案)」に基づき岡崎氏と懇談し、政策協定を締結した上で、支持・推薦を行った。

ただし、これまでの選挙同様、協会は会員個人の思想信条の自由を保障する立場から、直接的な選挙支援活動については有志の会「あたたかい神戸市政をつくる医師・歯科医師の会」で行った。

今回の市長選挙は、3選を目指す現職の久元喜造氏に岡崎氏をはじめ新人4人が挑む構図となった。結果、自民、立民、公明、国民が推薦する現職の久元氏が勝利した。岡崎史典氏は、5万9,722票を獲得したものの、及ばなかった。

今回の選挙は、新型コロナウイルス感染症の再拡大への備えとコロナ禍で苦境にあえぐ市民の暮らしや営業をいかに守り立て直すのかが問われる選挙であった。しかし、実際の選挙戦は、自民、立民、公明、国民の与野党相乗りの久元氏陣営が徹底した組織戦を展開し、活発な政策論戦が行われたとは言いがたいものであった。

こうした中、岡崎氏は、「長引くコロナ禍のもと、自己責任を押し付ける久元市政では、市民の命、くらしを守れない」として久元市政の転換とともに、「コロナから命、くらし、雇用、営業を守りぬく」と新型コロナ対策の充実や医療・社会保障制度の充実を精力的に訴えた。しかし、告示1カ月前の立候補表明は、初挑戦の岡崎氏の訴えを市内全域に広げ、知名度不足を補うには短すぎたといえる。

ただ、久元氏への与野党相乗りで、現市政へ批判票の有力な受け皿が無い中、岡崎氏が立憲民主党支持層の17・2%、共産党支持層の半数、国民民主党支持層の11・4%から得票を得たことは重要である。

協会と同神戸支部としては福祉医療制度の拡充、新型コロナ対策の充実など要求運動の重要な結節点として神戸市長選挙を位置づけ、取り組みを進めた。そうした中、医師・歯科医師の会で取り組んだアピールには、64人から賛同を得た。今後につながる重要な成果である。協会と同神戸支部は引き続き神戸市民と兵庫県民の命と健康を守るために、住民本位の地方政治実現に向け奮闘する決意である。

以上